

令和3年度
「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」
実施報告書

令和4年3月
北海道教育委員会

はじめに

障害者の生涯を通じた学習活動の充実に向けた取組については、平成 26 年の障害者権利条約の批准や平成 28 年の障害者差別解消法の施行、平成 29 年の文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」や平成 31 年の学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」などを踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務となっております。

こうした中、北海道教育委員会では、令和 2 年度から文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、学校卒業後の障害者の学びの場を拡充するため、地方公共団体が教育部局と福祉部局の垣根を越えて中心となり、大学等の高等教育機関や社会福祉法人、NPO 団体等が連携した、障害者の生涯学習のための「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築事業」に取り組んできました。

本事業では、参画する機関がそれぞれ得意とする役割を担うことで、地域全体として持続可能な障害者の生涯学習を推進する体制づくりをねらいとし、社会教育施設や大学等の教育機関、社会福祉法人等が協力し、障害者が参加できる学びの場の提供など新たな学習プログラムの開発・実証等の取組や学びの場づくりの拡大や質の向上に資する人材育成の研修プログラムの開発・実証等を進めているところです。

本報告書は、今年度の「地域連携コンソーシアム会議」の取組や各構成団体や道立特別支援学校などの取組、また、障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」などの資料等をまとめておりますので、各市町村や関係機関等における障害者の学びを支援する際の参考にしていただければ幸いです。

今後とも、本事業の実施に御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和 4 年 3 月

北海道教育委員会

目 次

I	地域連携コンソーシアム会議実施概要	
	第1回コンソーシアム会議資料	P2～
	第2回コンソーシアム会議資料	P14～
	第3回コンソーシアム会議資料	P18～
II	共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道	
	「障害のあるひと ないひと みんなでひろげよう 北海道の社会教育」	
	全体会・分科会資料	P30～
	まとめ	P96～
III	各管内の取組	P107～

I 地域連携コンソーシアム会議実施概要

令和3年度 「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 地域連携コンソーシアム会議実施概要

第1回 開催日時：令和3年7月30日（金） 13:30~15:00

- 議事概要
- ・ 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」について
 - ・ 実践研究事業（モデルプログラム）について
 - ・ コンファレンスについて

第2回 開催日時：令和3年11月26日（金） 13:30~15:00

- 議事概要
- ・ 関係団体等による取り組みの進捗状況について
 - ・ 令和3年度、共に学び、生きる共生社会コンファレンスについて

第3回 開催日時：令和4年2月17日（木） 10:00~11:30

- 議事概要
- ・ 今年度のまとめについて
 - ・ 次年度の取組について

事業名 北海道「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」

事業の趣旨・目的

- ・学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場の設置
- ・効果的な学習を支援するための具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実践研究の実施

事業内容

- ・地域連携コンソーシアム会議 (年4回)
- ・北海道立生涯学習推進センターによる道内市町村教育委員会への障害者の生涯学習推進に係る実態調査
- ・北海道教育庁根室教育局における、地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究事業 (ICTを活用した各種学習プログラムのオンライン開催、共生社会の実現を目指した活動の創出などの事例等の視察)
- ・モデル市町村 (北広島市) における、市町村版地域連携コンソーシアムの構築に向けた実証研究
- ・コンソーシアム構成団体が実施する事業等の情報共有
- ・市町村担当者対象研修会の実施に向けた、道教委社会教育主事に対する指導者養成研修会
- ・共生社会コンファレンスIN北海道 (オンライン開催)

事業実施体制・連携先

- 地域連携コンソーシアムの構成員
 - ※コーディネーターは北海道教育庁生涯学習課社会教育主事
 - ・北海道大学 ・北海道教育大学 ・藤女子大学 ・医療法人稲生会
 - ・いっしょにね文化祭実行委員会 ・社会福祉法人ゆうゆう
 - ・DPI北海道ブロック会議 ・北海道社会福祉協議会
 - ・北広島市教育委員会 ・道立特別支援学校 ・道教育庁根室教育局
 - ・道保健福祉部障がい者保健福祉課 ・道教育庁特別支援教育課
 - ・北海道立生涯学習推進センター

研究の成果と課題

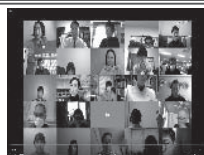
- <成果>
 - ・コンソーシアム会議やコンファレンスにおける実践交流を通して、障がい者の学びの様々な事例や各団体の取組の情報共有を進めることができた
 - ・コンファレンスを道教委主催のもとで開催できたことで、昨年度と比較して道内各振興局の生涯学習担当者との関わりが圧倒的に深まり、新たな連携やつながりを築くことができた
- <課題>
 - ・障害者の生涯学習について、各地域のNPO等の団体や自治体が行っている様々な取組の実態やその成果を効果的・効率的に発信すること
 - ・当事者のニーズ調査等により現状と課題を把握し、学びに関する機会の創出や、情報の一元化など、誰もが等しく同様に学びの機会を得るためのきめ細やかな支援を行うこと



【社会教育主事対象研修会】



【アダプテッド・スポーツ教室】



【コンファレンス】

その他研究の詳細など



地域連携コンソーシアム (道教委生涯学習課HP)



「障害者の生涯学習」に関する情報提供 (根室教育局HP)



医療法人稲生会による情報提供 (みらいつくり研究所HP)

文部科学省委託事業

障害者の生涯学習推進
コンソーシアム形成事業

令和3年度構想

事業の必要性

- H26年の障害者権利条約の批准やH28年の障害者差別解消法の施行等を踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で学ぶことができる体制の実現が必要
- R1年7月障害者の生涯学習の推進方策について (文科省通知) →【都道府県に期待される取組】障害者の多様な学習活動の充実等

事業の概要

- ①関係機関 (大学等の高等教育機関、障害者雇用を行う企業等、障害者雇用に見知のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等) が連携し、コンソーシアムを形成・運営する。
- ②効果的な学習を支援するための具体的な学習プログラム・実施体制等に関する実践研究。

①地域連携コンソーシアムの設置

- 関係機関が連携した体制の構築→事務局 (道教委社会教育課)
- 関係者の資質向上→道教委社教主事対象の研修会 (R2) ⇒市町村教育委員会等職員対象研修会実施 (R3~4)
- 関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施 (年1回)
- 障害者の自立や社会参加、ニーズ、生涯学習の機会提供等についての現状と課題を把握するための実態調査



②学習支援に関する実践研究

- 障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- 学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- 特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組の実施
- 障害者の学びを支援する人材の育成
- 障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- 障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

R2~継続

- ・市町村における障害者の生涯学習推進体制構築に関する実践研究【北広島市 (石狩教育局)】
- ・みらいつくり大学校による実践研究【医療法人稲生会】
- ・関係団体等による事業【いっしょにね文化祭実行委員会 など】

R3~新規予定

- ・第6期北海道障がい福祉計画との関連事業 (道保健福祉部との連携)
- ・「地域連携による障がい者の生涯学習機会の拡大促進」事業との連携
- ・青少年教育施設、大学や特別支援学校との連携事業 など

成果 ○各地域で障害のある人の社会参加と活躍を推進 ○各地域における支援人材の増加と障害への理解を促進
○障害のあるなしに関わらず生きやすい共生社会の実現へ

令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業名 障害者の生涯学習推進コンソーシアム事業

提案者名 北海道教育委員会

事業の趣旨・目的

障害者の生涯学習を推進していく上で、学びを最も身近で支える行政機関である地方公共団体の果たす役割は大変重要である。

特に、学校卒業後の障害者の学びの場づくりは、社会福祉法人やNPO法人、企業等、障害者支援に関わる民間団体において幅広く行われていることから、地方公共団体と外部の関係機関・団体等との連携は欠かせない。

こうしたことから、令和2年度に引き続き、多様な関係者との連携の場として、障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者により構成する地域の支援体制づくりに重要な役割を果たす協議会に社会教育をはじめとした関係者も参加し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議する場を設ける。

その際、地域ごとの課題や学びの場づくりを進める中核的な人材、学習機会の提供主体等が多様であることを踏まえ、北海道の実態に即した規模やメンバー等によりコンソーシアムを構成し、前年度の取組を発展継承させる。

また、障害者の生涯学習を着実に推進していくためには、地方公共団体の職員が障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について学び、理解し、必要な専門性を身に付けることが重要であることから、道教委が関係機関等と連携しながら市町村の担当者に対象とした研修会を実施するとともに、道内全市町村への普及啓発を推進する。

事業については、次の8項目に取り組む。

- ①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成
- ②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援
- ③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発
- ④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施
- ⑤障害者の学びを支援する人材の育成
- ⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策の検討
- ⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築
- ⑧障害当事者・関係団体・支援者等が参加するコンファレンスの実施

構成機関

○構成員（予定）及び役割

- ①北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課【社会教育・生涯学習】→事務局を担う、道内市町村教育委員会との連絡調整等
- ②北海道教育庁学校教育局特別支援教育課【特別支援教育】→特別支援学校との連絡調整等
- ③北海道保健福祉部【保健福祉行政】→福祉との連絡調整、事業の実施等
- ④医療法人稲生会【医療法人】→障害者対象のモデルプログラムの実施
- ⑤社会福祉法人ゆうゆう【社会福祉法人】→社会福祉法人としてのモデルプログラムの実施、社会福祉法人等との連絡調整等
- ⑥DPI北海道ブロック会議【障害当事者】→障害当事者としてのモデルプログラム実施への協力、連絡調整等
- ⑦北海道大学【社会教育論】→社会教育研究分野からの事業への助言等
- ⑧北海道医療大学【医療福祉論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施、福祉系大学等との連絡調整等
- ⑨藤女子大学【特別支援教育論】→高等教育機関としてのモデルプログラムの実施等
- ⑩いっしょにね！文化祭実行委員会【文化団体】→稲生会と合わせた障害者対象のモデルプログラムの実施、関係団体等との連絡調整等
- ⑪道立特別支援学校【特別支援学校】→特別支援学校としてのモデルプログラムの実施
- ⑫道立生涯学習推進センター【社会教育施設】→公民館など社会教育施設等におけるモデルプログラムの開発、調査研究
- ⑬北海道教育大学【大学と地域との連携】→公開講座の実施、学生ボランティアの養成、研修会の実施
- ⑭北海道社会福祉協議会【社会福祉】→道内各市町村の社会福祉協議会との連絡調整、各種事業への協力 など
- ⑮北広島市【市町村】→市町村レベルの地域コンソーシアムモデルの形成
- ⑯岩見沢市【市町村】→「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業実施予定

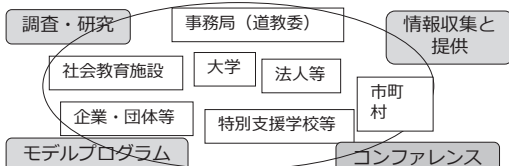
令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

事業実施体制

○関係機関の役割

- ・地方公共団体→事務局としての全体調整、コンソーシアム会議の設置、事業計画の策定・推進、教育局と知事部局の連携による情報集約と提供、コンファレンスの開催による普及・啓発等
- ・社会教育施設→調査研究機能、学習相談機能の活用
- ・高等教育機関→講座の企画・助言、講座の開設（オープンカレッジ等）、履修証明プログラムの作成、講師・指導者の派遣、学生ボランティアの派遣・養成、遠隔学習等
- ・医療法人・社会福祉法人・企業等→障害者福祉サービスを通じた講座の提供、大学等の講座の運営支援、障害者の就労支援、ボランティア人材の養成協力等
- ・地域民間団体・特別支援学校→講座の企画・ノウハウ共有・助言、多様な障害者の学びのニーズ対応（講座提供）、障害当事者・保護者のニーズの把握と共有等
- ・連携市町村→市町村版地域コンソーシアムの検討、「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」事業の実施

コンソーシアム体制イメージ



事業実施スケジュール

4月	・委託契約締結
5月	・第1回コンソーシアム会議の開催 (協定書等の確認、事業計画の確認、モデルプログラムの検討)
6月	・実態調査アンケートの検討
7月	・道内市町村対象研修会実施計画の確認（道内14管内において 通年 実施）
8月	
9月	・第2回コンソーシアム会議の開催 (モデルプログラムの検討、情報共有、実態調査アンケートの確認、 学びに関する情報の収集・提供システム構築への情報収集、 検討、コンファレンスの検討)
10月	・モデルプログラムの検討及び実施（通年で随時実施）
11月	★各プログラムで検討会議をもち、具体的な方策について協議 の上、随時実施する。（オンラインでの開催も進める）
12月	
1月	
2月	・全道研修会（コンファレンス）の開催
3月	・第3回コンソーシアム会議の開催 (今年度のまとめ)

令和3年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」企画提案書

具体的な内容

※事業については、次の8項目に網羅的に取り組む。

①関係機関の参画による地域連携コンソーシアムの形成

・コンソーシアムは、北海道教育委員会が事務局となり、関係機関（大学等の高等教育機関、障害者雇用に見知のある社会福祉法人等や生涯学習の機会を提供する民間団体等）から幅広く参画を得て協定等の締結を行う。

・コンソーシアムにおいては、道内全市町村や当事者への実態調査を行い、障害者の生涯学習の推進についての実態把握を行う。さらに、各地域の教育局の機能を活かし、令和2年度に実施した質問紙調査の結果をベースにしながら、各教育局管内市町村の障害者の生涯学習推進担当者や首長部局福祉担当者、各市町村社会福祉協議会等の関係者を対象とした研修会を実施するとともに、道内の各地域の実情を踏まえた学習プログラムの検討や、地域のニーズを把握するためのヒアリングを行う。なお、ニーズ調査に当たっては、当事者の参画を得て進める。

②障害者の学びのニーズを踏まえた講座内容・実施方法、合理的配慮を含む必要な支援

③学校教育法第105条に基づく履修証明書の発行を見据えた新たな学習プログラムの開発

④特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習への意欲向上に資する取組の実施

⑤障害者の学びを支援する人材の育成

⑥障害者の学びの場を継続的なものとするための方策（費用負担の在り方等）の検討

⇒②～⑥の事業については、多様な実施主体によるモデルプログラムを次のとおり実施する。

・②及び⑤については、社会福祉法人やNPO法人等が主体となって実施するプログラム（障害福祉サービスと連携した学びの場・費用負担と在り方等）を中心に関係団体や障害当事者からのヒアリング等を通じて課題等を整理し、事業化に向けた検討に着手する

・②については、大学の公開講座等と連携したプログラム（卒業生の主体的な学びへの参画を促進するプログラム）

・③については、大学の研究機能を活用した公開講座等のプログラム（ボランティアの育成・履修証明書の発行を見据えたプログラム）

・④については、文科省が作成した「障害者の生涯学習推進」のためのリーフレットを活用した好事例の収集や、各モデルプログラムと特別支援学校との連携したプログラム（関係機関・団体等との連携プログラム）

・⑤については、社会教育施設等における講座等のプログラム（継続的に学ぶことができる講座・人材育成等）

また、北海道の広域分散型の特徴を踏まえ、ICTの活用が可能なプログラムについては、遠隔学習を試行する。各種会議についても、遠隔会議システム等を活用し実施する。

なお、モデルプログラムについては、前年度の検討事項や、道内各地域の実態調査の結果を踏まえ、道内各市町村へ普及させることをめざし、各市町村で取り組めるモデルプログラムとなるよう開発を進める。

⑦障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

・北海道立生涯学習推進センターの有する相談支援や情報収集・提供体制を活用し、障害者の生涯学習推進に向けたシステム構築への研究を行う。

⑧地域における関係団体・支援者・障害当事者等が参加するコンファレンスの実施

・上記に示す研究によって得られた成果について、周辺の都道府県・市町村等の行政、学校、関係団体等に対して、報告・普及を行う。

文部科学省委託事業「障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業」 令和3年度 障害者の生涯学習推進研究協議会 実施要項（案）

1 趣 旨

市町村の障害者学習支援担当職員等を対象に、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例についての説明や、障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりを進めるための地域の実情に応じた協議等を行い、障害者の学びの場づくりの担い手の育成を図る。

2 主 催 北海道教育委員会（主管 実施教育局）

3 協 力 北海道保健福祉部 北海道社会福祉協議会

4 期 間 令和3年7月～12月までの間

5 対象市町村 各管内全市町村

※令和3年～4年で全ての市町村において実施する

6 参加対象 市町村教育委員会職員、市町村首長部局職員、市町村社会福祉協議会職員 等

7 会 場 各教育局で定める（オンラインによる実施も可）

8 日 程

9:30 9:35 10:20 10:30 11:45

開 会	説 明	休 憩	協 議	閉 会
--------	--------	--------	--------	--------

※午前又は午後など半日日程での開催とする（2時間～2時間半程度）

※内容や時間は、各会場の実情に応じて柔軟に計画してよい

9 内 容

①説 明：「障害者の生涯学習の推進方策について～市町村に期待される取組～」

説明者 各教育局社会教育指導班

- ・国の障害者の学びに関する当面の強化策についての説明を通じて、障害者の生涯学習推進の意義や方向性、求められる取組についての理解を深めます。
- ・障害の有無にかかわらずともに学ぶ環境づくりに向けた取組の現状と課題について、先進事例から学びます。

○説明資料については、本庁が作成する共通資料を活用する

○先進事例等の紹介については、本庁が用意する資料のほか、各市町村等の実情に応じた資料を各教育局において準備し活用する

②協 議：「市町村における障害の有無に関わらず共に学ぶ場づくりに向けて」

進 行 各教育局社会教育指導班

市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた取組の充実に向け、各市町村の実情を踏まえた協議を行います。

障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業

野遊び×共生社会 「インクルーシブキャンプInほっかいどう」

事業の必要性

- 障害者の多様な学習活動の充実が必要⇒コロナ禍の中、「外」に出ること、「つどう」ことがさらに困難
- 共生社会の実現に向けて支援人材の増加が必要⇒障害者の学びのニーズを踏まえた合理的配慮の検討

○障害の有無に関わらず楽しめる「野遊び」とおして、共生社会実現に向けた取り組みの発信

事業の概要

●学習支援に関する実践研究 『インクルーシブキャンプIn北海道』

※「野遊び×共生社会」をテーマに、すべての人が参加できる野遊びプログラムの開発と調査研究

- ①障害者も参加可能な「野遊び」プログラムの開発
- ②合理的な配慮を含む必要な支援の研究
 - ・対象／障害のある方
(障害種別は問わない・特別支援学校生徒も含む)
 - ・人数／6名
 - ・会場／青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
 - ・期間／令和3年8～9月【1泊2日】
 - ・内容／障害の有無に関わらず楽しめる「野遊び」
(自然体験、食、宿泊・・・)
 - ・調査研究／参加者へのアンケート調査
合理的な配慮の効果等の把握

道教委社会教育課
・事務局
・全体企画、調整

コンソーシアム
参画団体
・事業運営協力
・調査研究支援

ネイパル足寄
・会場
・プログラム運営
・調査研究

ディスティネー
ション十勝
・事業監修
・プログラム支援

成果／障害の有無に関わらず生きやすい共生社会の実現・全ての人が幸せになる地域社会の創出

「みらいつくり大学」 2021年度の取組紹介

医療法人稲生会
みらいつくり大学校
松井翔惟

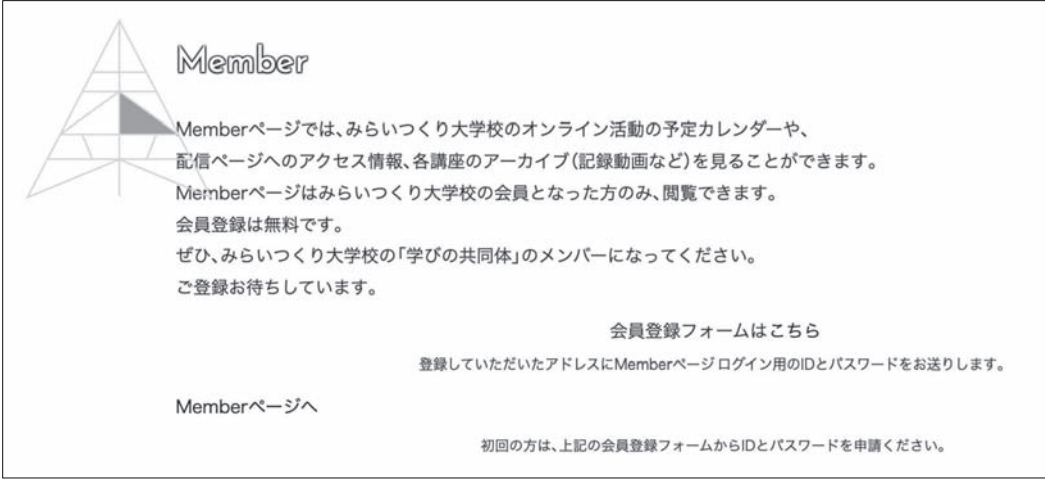
2018

2021年5月13日～
みらいつくり研究所ホームページ(<https://futurecreating.net>)

2019

- ・メンバーページにて、会員登録を開始

2020



Member

Memberページでは、みらいつくり大学校のオンライン活動の予定カレンダーや、配信ページへのアクセス情報、各講座のアーカイブ(記録動画など)を見ることができます。Memberページはみらいつくり大学校の会員となった方のみ、閲覧できます。会員登録は無料です。ぜひ、みらいつくり大学校の「学びの共同体」のメンバーになってください。ご登録お待ちしております。

会員登録フォームはこちら
登録していただいたアドレスにMemberページログイン用のIDとパスワードをお送りします。

Memberページへ

初回の方は、上記の会員登録フォームからIDとパスワードを申請ください。

2021

2018

2021年5月13日～
みらいつくり研究所ホームページ(<https://futurecreating.net>)

2019

- ・メンバーページにて、会員登録を開始



カレンダー（参加URLの一元管理）



アーカイブ機能（オンデマンド参加）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



お手話べり

アイヌ語

みらいつくり研究所
FUTURE CREATING INSTITUTE



新聞

（奇術クラブ）

2021

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



2020



講師：関根摩耶（アイヌ語名：ノト）大学4年生。アイヌ文化が今でも強く残る北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。現在は大学でアイヌ語研究会に所属。

- ・アイヌ語弁論大会 2度最優秀賞受賞
- ・平成 年度 アイヌ語ラジオ講座 講師
- ・ 年 月から日高管内を走る道南バスのアイヌ語アナウンスを担当
- ・ 「しとちゃんねる」にて友人とアイヌ語、アイヌ文化発信など

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

（さあ、でかけようHOKKAIDO）

（奇術クラブ）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019



2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

（さあ、でかけようHOKKAIDO）

（奇術クラブ）

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019

さあ、でかけようHOKKAIDO

-歴史と文化のバリアフリーガイド-

目的

・北海道各地にある社会教育施設等で行われている学びについて紹介し、生涯学習の機会につながるような当事者目線の情報を提供する。

方法

・動画の作成・公開を行う。
・みらいつくり大学の担当者と各市町村の社会教育に関わる方との対談を収録を行う。

2020

内容

・市町村にある博物館などの展示内容
・障害当事者が安心して見学・利用できる情報

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

(さあ、でかけようHOKKAIDO)

(奇術クラブ)

2018

読書会

哲学学校

食堂

映画同好会

ハワイアン

しさくの広場

2019

2020

2021

お手話ベリ

アイヌ語

新聞

(さあ、でかけようHOKKAIDO)

(奇術クラブ)





令和3年度 北海道共生社会コンファレンス

背景

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実**することが急務である。

目的

障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を開催し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の充実**を目指す。

参加者

○昨年度「オンライン」による実施としたことで、北海道のみならず全国から多くの参加者を得ることができた
⇒新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、今年度は引き続きオンラインによる参加とする

○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など
⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

北海道コンファレンス実施内容

- 令和元年度・令和2年度に実施したコンファレンスの内容を発展させたコンファレンスを実施
 - ・第1部：昨年度までは有識者によるシンポジウム形式（受動的）⇒今年度は参加者が全員参加する全体会議形式（能動的）
 - ・第2部：昨年度は地域/イベント/テーマの各コミュニティにおける「学び」を当日に実践形式で検証
⇒今年度はすでにあるコミュニティの実践から新たなつながりが生まれる可能性を検証

今年度

- ・テーマ：参加者やコンソーシアム構成団体による活動を「学び」の観点から捉え直しそれぞれのコミュニティをつなぐ場とする
- ・コンファレンスの原案を企画する、「企画部会」を設置
- ・基本的には「全体会」「分科会」「まとめ（ふりかえり）」の3部構成
- ・開催時期は「2022年2月5日（土）を想定」1日開催
- ・オンラインによる開催とする。「昨年度第1部Zoomウェビナー⇒今年度第1部Zoomミーティング」
- ・参加人数は、上限300名（Zoomの上限）

令和3年度

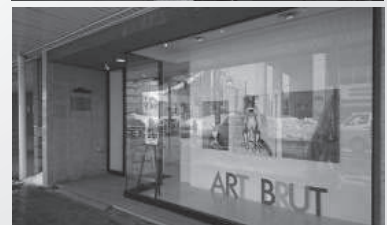
「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

アートアカデミーの開催による障がい者の 生涯学習推進事業

北海道岩見沢市

岩見沢市のこれまでの取組み

- 平成22年～ 障がい者アート展岩見沢ハート&アート開始
- 平成28年～ 北海道アールブリュットフォーラム開催（3年連続）
- 平成30年～ アールブリュットショウケース開催
- 令和元年 岩見沢アールブリュット芸術祭2019開催
- 令和2年 岩見沢アールブリュットギャラリー開設



アートアカデミー概要

岩見沢市では、地域資源である北海道教育大学岩見沢校と連携しながら芸術文化・スポーツに係る取組みを推進しており、地域の特色を活かし、芸術文化をキーコンテンツとする障がい者の生涯学習の推進は、障がい者本人の生活を豊かにすることに加え、多様性を包摂する共生社会の実現に資する可能性を有している。

本事業においては、アートアカデミーとして学校卒業後における障がい者が北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画運営にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

連携協議会構成

氏名	所属・役職等
藤井 備	岩見沢市健康福祉部福祉課長
白石 丈人	岩見沢市教育部生涯学習・文化・スポーツ振興課長
三橋 純予	北海道教育大学岩見沢校教授
大友 恵理	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会
壽崎 琴音	北海道アール・ブリュットネットワーク協議会
村林 太郎	岩見沢ハート&アート実行委員長
松井 圭子	岩見沢市日の出小学校
三浦 啓子	社会福祉法人北海道社会福祉事業団福祉村
植田 一哉	社会福祉法人北海道社会福祉事業団福祉村
中道 章子	障がい当事者

※事務局は岩見沢市健康福祉部福祉課におく。

実施内容

○芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

○創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

○展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

○展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。

参加募集数30名、オンライン配信および市公式アカウントへの映像掲載。
各学習会の会場として北海道教育大学岩見沢校施設の利用を調整しているが、新型コロナウイルス感染症の状況によって岩見沢市生涯学習センターに変更。

スケジュール等

6月	委託契約締結
7月	
8月	参加募集
9月	芸術文化鑑賞学習会
10月	創作体験・創作学習会
11月	展示技術学習会
12月	展示実践学習会
1月	
2月	成果報告書取りまとめ
3月	

■アイヌ語講座（月1回）

今年4月から開始、月1回の講座開催を継続中。

「テアタランギ」という、アイヌ語のみを使ったコミュニケーションが人気。

■私の好きな絵本（月数回配信）

稲生会の職員が好きな絵本をYouTubeで紹介する。

絵本の感想やどのような時に読むのかエピソードを4分程度で披露。

親が入院中や外出できない子どもたちへの読み聞かせや、コロナ禍の本屋や図書館を利用できない人の本との出会いの場とする。

■270分de読む100分de名著（これまで4回）

哲学学校が休講の際の自由研究として始まった。

NHK「100分de名著」の書籍を参考に自由な参加者たちの解釈を語る。

■大学生と障害のある子どもたちの挑戦（単発）

ーオンライン山登りプロジェクトー

大学生が障害のある子どもたちとの交流の一環として山登りを企画・実行した。

ZOOMとラインチャットを活用し、山登りの様子を随時配信、映像による臨場感を届ける。終了後には交流会も開かれ、参加者のダイレクトな感想を伝え合った。

■「さあ、でかけよう！歴史と文化のバリアフリーチャンネル」（定期配信予定）

障害当事者が安心して外出し、生涯学習に繋がるであろう学びや体験の機会を得られるような当事者目線の情報を提供することを目的とする。オンラインで収録した文化的遺産の紹介や障害当事者が安心して見学・利用できる情報を提供する。

第一弾はむかわ町「穂別博物館」で収録済み。近日中に配信予定。

■THIS IS US同好会（月1回 木曜日 11:30-12:30）

みらいつくり大学校の参加者が面白いと注目を集めていた海外ドラマの同好会。

みらいつくり大学校他講座参加の障害当事者、稲生会職員、外部の介護事業所職員のほか、神戸からも参加あり。

■音楽講座（全4回）

国立音楽大学の講師をアドバイザーをして企画。音楽を通して自由な表現や創作活動を行うことで多様性や違いを楽しむ。

全4回の開催内容は全て異なり、様々な角度から音楽を捉える講座となっている。

■宗教学（2回連続講座）

北星学園大学の山我哲雄教授（岩波ジュニア新書『キリスト教入門』の著者）に、「キリスト教会の歴史」をテーマに講義を実施して頂く予定（12/15, 12/22の2回連続講座）。

みらいつくり大学 音楽講座開催 (全4回)

日程：2021年11月
～2022年2月

会場：ご自宅
参加：オンライン
(使用)

第1回～第3回の講座
2021年11月1日
受付開始！！

音楽講座の
最新情報はこちら



みらいつくり研究所ホームページ

＜お問い合わせ＞
医療法人 稲生会
電話

(担当 浅里のぞみ)

第1回 思い出の曲を 語ろう

開催日
2021年
11/25(木)
14:00～



講師
山本智子氏
(国立音楽大学)

第2回 音楽を楽しもう

開催日
2021年
12/11(土)
14:00～



講師
佐藤由理氏
(RISE 音楽教室)

第3回 作詞してみよう

開催日
2022年
1/14(金)
14:00～



講師
杉田篤史氏
(INSPI リーダー)

第4回 音楽会場に 行ってみよう

開催日
2022年2月
予定



会場
札幌市内のコンサート
ホール



講師紹介 看護師 山本智子氏 (国立音楽大学)

国立音楽大学音楽学部音楽文化教育学科准教授、博士(子ども学)、近著に、『単著「音楽キャリア発達支援」(北樹出版)、単著「知的障害者の生理・病理および心理と教育・支援」(開成出版)等。教育学を中心とする学際的な視点に基づいて、病気が障がいのある子どもの参加を通じた乳幼児期からの発達支援に係る研究や教育に取り組んでいる。

第1回 思い出の曲を 語ろう

年 木
: ~

みなさんの思い出の曲はなんですか？

音楽との出会いは偶然から始まります。あなたにとって『思い出の曲』はどのような曲ですか？曲への思いを語り合えたら新たな発見があるかもしれません。後半は音楽の効果についてプチ講座も開催します。



リズムや音のちがいを楽しんで！

同じ曲でもリズムや和音の違いによって曲の印象がガラリと変わります。自分が好きだと思う音楽に出会いましょう。

【音楽で来年の運勢を占ってみよう！？】
あなたの来年の運勢は？？ 蛍の光を題材に選んだ和音から運勢を占っちゃおう！

第2回 音楽を楽しもう

年 土
: ~

講師紹介 ピアニスト 佐藤由理氏 (RISE 音楽教室 講師)

北星学園女子高等学校音楽科ピアノコース、国立音楽大学音楽教育学科卒業。卒業後は宮地楽器(於：東京)にてピアノ講師を経て、帰国後は RISE 音楽教室ピアノ講師のほか、各種イベントプレイヤー、プライマルオルガニストなどの演奏活動も行っている。2017年には第3回「万人の響」コンサートにてオーケストラと共演。好評を博す。日本ギロック協会、同演会、星音会、各会員。



講師紹介 歌手 杉田篤史氏 (アカベラグループ INSPI リーダー)

1997年大阪大学でINSPI結成。2001年フジ系「ハモネブ」出演、メジャーデビュー。2005年より日立CMソング「この木なんの木」担当。2017年より音楽ハーモニーからチームビルディングを学ぶ「ハモセッション」をスタート。愛媛大学羽鳥准教授と共同研究をすすめている。

第3回 作詞してみよう

年 金
: ~

自由な表現があつていいじゃない！！

『この木なんの木』の曲にオリジナルの歌詞をつけます。新しい年を迎え、これからの自分のスタートをぜひ歌詞に込めてみませんか？
【声を出すだけが歌じゃない】
耳で聞く、目で歌う、様々な表現で歌ってみよう！！



第4回 音楽会場に 行ってみよう

年 月
(予定)

札幌市内の音楽会場を見に行こう！
どこに行くかの詳細は後日発表します！楽しみにしていてね♪

※申込み受付日は調整中です



全2回
ZOOM講義開催!

宗教学講座

キリスト教会 の歴史

信仰は同じでも袂を

分かつことがある。キリスト教の歴史には「キリスト教会の歴史」と呼ぶべき人々の歴史があります。

第一線の研究者であり若者向けの入門書の著者でもある専門家の講義を聴くことのできる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

キリスト教入門

山我哲雄 著



岩波ジュニア新書

第1回 ローマカトリック教会と東方正教会

日時：12月15日（水）18:00～19:30

第2回 プロテスタント教会の諸教派

日時：12月22日（水）18:00～19:30

講師：山我哲雄先生（北星学園大学教授）

旧約聖書学がご専門。岩波ジュニア新書の『キリスト教入門』（2014年）も執筆されています。今回はこの本の後半部分について、2回に分けて講義していただきます。

どなたでも受講できます。視聴のみも大歓迎。お気軽にご参加下さい

お問い合わせ

受講登録はこちら



<https://forms.gle/ASGjvG2VV6U4fw2Y9>

参加には、事前のお申し込みが必要です（録画データは、みらいつくり研究所会員のメンバーページで視聴できます。会員登録は無料です）

医療法人稲生会 みらいつくり研究所

札幌市手稲区前田4条14丁目3番10号

電話：011-685-2799（法人代表）

E-mail: brotom1977@gmail.com（担当:土島）

HP: <https://www.futurecreating.net/>

登頂から下山まで
つながり続けた先に見えたもの

大学生と障害ある子どもたちの挑戦

オンライン山登り project 報告会

羊蹄山に登りたい。そして重度障害のある子どもたちに山頂に広がる素晴らしい景色を届けたい。一緒に登山を楽しみたい。シンプルな学生たちの想いから始まったこのプロジェクト。最終的にはオンラインでつながりあった空間にこれまでにない感動が広がりました。なぜ挑戦しようと思ったのか。どんな準備をしてきたのか。彼らの報告とともに、そこで得られた「学び」を皆さんと共有します。



10月23日(土)
15:00～16:30まで

Zoom + YouTube Live 配信！

コーディネーター 土畠智幸

医療法人稲生会理事長。札幌市内及び近郊の小児在宅医療に加えて北海道全域を対象に医療的ケア児の暮らしをサポートする拠点整備事業を展開。学びを通じたみらいづくりに挑戦中。



札幌市内の学生チーム
DOSANKO DREAMix
(学生の枠を超えたイベントを企画。地元を盛り上げたいと北海道を舞台に様々な活動を展開中)のメンバーを中心に今回のプロジェクトに向けた登山隊を結成。準備期間およそ1ヶ月で羊蹄山登頂を実現しました！



参加方法



ご登録のアドレスに
当日アクセスする
URLを事務局から
ご案内します



① QRコードから参加申込
<申込締切：10/22>

② 当日、開催時刻にパソコン
やipad、携帯電話で参加！



● お問い合わせ先
医療法人稲生会 みらいづくり研究所
☎ 011-685-2799 FAX 011-685-2798 MAIL toseikai@kjnet.onmicrosoft.com



コンソーシアム構成団体名 北海道医療大学

取組名 北海道内特別支援学校への障がい者の生涯学習に関するヒアリング調査

- ・取組の趣旨・目的
高等教育機関が生涯学習の提供モデルを検討するための基礎資料とするため、卒業後における生涯学習の機会として求めるものについて、特別支援学校へヒアリング調査を行い、学校教育の視点からみた生涯学習に関するニーズについて明らかにすることを目的とした。
- ・実施体制や連携先等
実施体制：近藤尚也、志水幸、白石淳（北海道医療大学看護福祉学部/北海道医療大学先端研究推進センター）
連携先：北海道教育庁社会教育課による調査依頼協力
- ・取組の内容・方法
北海道内の高等支援学校及び特別支援学校高等部計7校について進路指導担当教員を中心に半構造化面接によるヒアリング調査を行った。調査期間は2021年10月1日～2021年12月10日、調査項目としては学校の特色、卒業生の主な進路、生涯学習の内容について、必要なサポートや工夫、学習の連続性について、生涯学習における課題、ニーズ（本人、保護者）、情報提供のあり方についてなどであった。これらについて、その内容から質的に項目の整理を行い分析した。

取組の成果と課題

- <成果> 学校教育の視点からみたニーズについて3項目に整理できた。
- 1, 生涯学習に求めること・・・慣れ親しんだ場所での開催、送迎、少ない費用負担、活動内容（就労との運動、金銭管理、人間関係、健康管理、運動など）、いつでも参加できる状況、社会参加の場（仲間とつながる場）としての役割 など
 - 2, 学校教育との運動・・・学校で活用した教材や学びの構成・身につけたスキルをいかした活動、運動機会の継続 など
 - 3, 情報のあり方・・・有効な情報が本人に届くこと、在学時から継続できるための情報、参加きっかけとなる情報提供 など
- <課題>
- ・情報提供の場や活動資源の不足・地域差（学校も情報が少ない）
 - ・障がいの状況や進路（一般就労か福祉サービスか）によって情報を得られる機会の違い（一般就労だと情報を受け取る機会が少ない）
 - ・学校教育では意図的に運動の場を設定している学校が多いが卒業後はなくなってしまう、学びの継続がなくなることで学校での学びを忘れてしまう、仲間とのつながりが希薄になってしまうといった学びの連続性のあり方
 - ・学校在籍時から生涯学習活動そのものへの関心をどのように醸成していくのか（慣れ親しむ土台）

コンソーシアム構成団体名 北海道教育大学

取組名 みんなの遊び場 in ふじのめ2021

- ・〇目的：・特別なニーズのある児童・生徒に対する休日の余暇支援活動として、様々な運動遊びを経験できる場を提供する
(学校の教育課程の一環ではなく、社会教育活動として実施、活動保険に加入)
- ・学生が臨床活動を行うことができる場を提供する
- 〇日時：令和3年10月31日（日）午前の部（小学生）：10:00～15:00
- 〇場所：北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級（ふじのめ学級）体育館
- 〇参加者：北海道教育大学附属札幌小・中学校特別支援学級の児童及び生徒とそのきょうだい
(例年は一般募集をしているが、本年度はコロナとして対策として対象を限定して実施)
- 〇内容：車椅子体験：競技用車椅子での移動体験、鬼ごっこやボール等を用いた遊びや自由遊び

取組の成果と課題

<成果>
午前の部(小学生とその兄弟)18名、午後の部(中学生とその兄弟)18名、学生等のスタッフ21名が参加し、各種の身体を使った遊びや活動を行った。アンケートの回答には、「コロナ期間があって全然大学生と遊べなかったから楽しかった」「もっと遊べるものを増やしてほしい」などの回答や、保護者の回答には、「全身を使い、普段できる機会のない遊びをしていた」や、「家にいるとテレビゲームやDVDといった遊びになるので、体を動かして遊べる場は良いと思った」といったなどの記述が見られた。

<課題>
「慣れない環境で中々遊べなかったため、そのための工夫があればもっと良いと思った。」「体育館が狭く物が多い」などの回答があった。参加した児童・生徒がより多くの時間、安全に遊びに参加できるように、臨床経験が豊富なスタッフの確保やさらなる環境整備の工夫が必要である。



北海道社会福祉協議会

取組名 地域共生社会推進研究協議会

・取組の趣旨・目的

「地域共生社会」の実現と包括的支援体制構築に向けた考え方、実践を福祉関係者に啓発する

・実施体制や連携先等

北海道社会福祉協議会主催

・取組の内容

上記の趣旨を普及させるための市町村社協、行政、自立相談支援機関、社協以外の社会福祉法人向けのセミナー

<内容> 基調講演、基調説明、実践報告、グループ討議

取組の成果と課題

<成果>

市町村社協等の福祉関係者には地域共生社会の考え方と実践例を啓発する良い機会となっている。

<課題>

福祉関係者以外の幅広い住民層にまで啓発する取組みにはなっていない。

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道真駒内養護学校（札幌市）

事業名

高等部における生涯学習につなげる取組

趣旨・目的

- ・卒業後の生活を意識し、継続した学びにつながるよう、個々の教育的ニーズに応じた活動を通して、生徒一人一人が自ら学ぶ力を育てる。
- ・日頃の学習の成果を発揮する場面をより多く設定することで、主体的に考え意欲的に活動する態度を身に付ける。
- ・地域及び関係機関等と共に活動することで、地域の一員としての意識や、様々な人と協力して物事に取り組む力を育む。

取組内容

○障がい者スポーツの推進

- ・体育の授業を中心に、ボッチャ、フロアカーリング、ボウリングを3年サイクルで取り組む（昨年度はボッチャ、今年度はフロアカーリングなど）。
- ・学習の成果を発揮する場として、それぞれの大会を実施する。
- ・オリジナルルールではなく、あえて公式ルールに則って各大会を実施することで、卒業後の学びの拡大や継続につなげる。

○フラワースマイル作戦

- ・地域の方々に来ていただき、花の扱い方、苗の植え方や育て方などを教えていただく。
- ・地域の方々と協力して、校舎横の川沿いの一角に花壇を設置し、一緒に花を植える活動を行う。

成果と課題

○成果

- ・生徒の身近な活動に取り組むことで、生徒の主体性や達成感の向上につながった。
- ・地域の方々と関わることで、地域への関心や協働への意識が向上した。
- ・地域の方々へのお礼や作業製品の配付など、活動後の双方向的なやりとりにつながった。

○課題

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、内容や実施方法等の変更を余儀なくされた。また、直接的な活動が制限され、地域への関心の向上など期待された成果を達成することが難しかった。

学校の概要など

本校は昭和36年に開校した北海道で初めての肢体不自由特別支援学校です。
 小学部、中学部、高等部があり、132名の児童生徒が在籍しています（令和4年2月1日現在）。
 令和3年度に開校60周年を迎えました。



本校ホームページ



高等部体育大会（フロアカーリング）



フラワースマイル作戦

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道札幌あいの里高等支援学校（所在地：札幌市）

事業名

「Go for your dream.」夢のために、ベストを尽くす～生徒の主体性と個性を磨く部活動

趣旨・目的

- 【校訓】「未来」～これまでの自分を振り返り、これからの未来を創造する。「チャレンジ」～過去の経験を踏まえ、目標を掲げ進む。「感謝」～他者の好意に感謝できる。他者の役に立つことを喜びに感じられる。
- 【部活動の目的】(1)学校生活に対する意欲を高める。(2)生徒の放課後の活動を充実する(3)卒業後も積極的に趣味や特技を継続的に楽しむ姿勢を育てる。(4)活動を通して人間関係を深め、社会性を育てる。

取組内容

- 1 活動時間
毎週火・木曜日 15:20～16:45
- 2 部活動の種類
バドミントン部、サッカー部、バスケットボール部、卓球部
音楽部、美術部、パソコン部
- 3 部活動参加生徒数
約90名
- 4 令和3年度の主な対外的な活動
(1)サッカー部～北海道新篠津高等養護学校との練習試合
(2)バスケットボール部～FIDバスケットボール大会に出場
(3)パソコン部～NPO法人札幌チャレンジドから講師を招いて検定受験に向けた取組（特別支援学校ICT就労促進事業の活用）

成果と課題

- 【成果】
 - ・生徒の余暇活動、趣味を広げ、深めることができる。
 - ・異学年との関わりから交友関係が広がり、豊かな人間関係を築くことができる。
 - ・チャレンジする楽しさや仲間との協働を体感し、個性をさらに磨くことができる。
- 【課題】
 - ・感染症予防対策のため、活動に制限がある。
 - ・コロナ禍の影響のため、対外的な活動（大会など）が減少している。
 - ・職員の勤務時間内で部活動を運営しているため、活動時間に制約がある。

学校の概要など

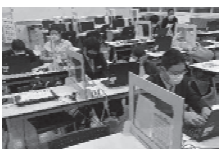
学校教育目標：Go for your dream.『夢のために、ベストを尽くす』
～今の自分を超え、より高みをめざそう～
生徒数：169名（令和4年1月現在）
設置学科：生産技術科、環境・流通サポート科、被服デザイン科、
食品デザイン科、福祉サービス科、普通科
開校年月：平成28年4月



【サッカー部】新篠津高等養護学校との練習試合



【バスケットボール部】FIDバスケットボール大会



【パソコン部】検定練習

特別支援学校等における障害のある児童生徒を対象とした生涯学習の意欲向上に資する取組

学校名 北海道函館高等支援学校（所在地：函館市）

事業名

「地域との連携」2019函館マラソンボランティア活動

趣旨・目的

- ・社会貢献活動と生涯学習の基盤づくり
- ・ ☆学校の想い ○地域でのスポーツ大会の運営に参加～「見る・支える・知る」を経験
- ・ ○卒業後のスポーツライフや生涯学習へつなげてほしい～「する・見る・支える・知る」の始まり

取組内容

1. 函館マラソン実行委員会の協力による外部講師授業
(1)大会の特徴や魅力 (2)参加者・コースの特徴
(3)評価→改善→運営（日本一を目指す！）
2. 総合的な探究の時間との関連（テーマを生徒が自ら設定）
数学、理科、社会、職業、外国語の教科横断的な取り組み
(1)マラソンコースの歴史や課題 (2)塩分の必要性
(3)人の体のつくりと働き (4)長距離を走るための走法
(5)外国人とのあいさつ、応援や励ます表現
(6)トップランナーのスピードと距離 など
3. 大会当日の役割
(1)フル・ハーフ合わせて8000人の参加者への応援
(2)ゴール後のペットボトルや完走タオルの配付

成果と課題

- ◎運営者の大会にかける想いや説明を理解することで、準備段階から本校も運営に参画・協力していることを実感
- ◎自己肯定感の向上、新たな気付き・探究
 - ・水を渡すと「ありがと」と言われてうれしかった。
 - ・いろんな人がマラソンに参加しているんだなと思った。
 - ・マラソンが、こんなにもきついものなんだと知った。
 - ・すごく疲れたが、とても楽しめた。来年もまたやりたい。
- ◎総合考察（これからの教育目標の実現を目指して）
 - ①カリキュラム・マネジメントの確立と地域資源の活用
 - ②「生活との結び付き」（職業生活や社会生活）
教育活動全体を通じた意味付け・価値付け・重み付け等
 - ③自己の「生き方」に迫る学びを実現する授業改善

学校の概要など

平成31年度（令和元年度）に開校し、知的障がいのある生徒が対象。
学校教育目標は『共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成』とし、普通科、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の4学科から編成されている。
<http://www.hakodatekoushi.hokkaido-c.ed.jp/>



スタート応援

「お疲れ様でした」と声をかけながら配付

事業名

「地域との連携」2021 『花いっぱい道づくりの会』のボランティア活動参加

趣旨・目的

- ・社会貢献活動と地域との協働
 - 地域で長年継続しているボランティア活動への参加
 - 地域住民や地域企業の方、少年団等の子ども達と一緒に活動
- ・生徒が社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを考える

取組内容

1. 『花いっぱい道づくりの会』の活動

この会は2004年から函館道路事務所、函館市、財団法人函館市住宅都市施設公社との4者にて道路の緑化・清掃活動を実施している。花かいどうボランティアは平成16年度から18年間続き、地元に着し、今年も国土交通大臣賞を受賞している。

また、2019年には『ベスト・シーニックパイウェイプロジェクト』で最優秀賞を受賞している。

2. 参加した活動（教職員、生徒会、PTA）

この会は28団体から構成されており、本校は今年度から加入団体として登録

(1)春から秋にかけては国道沿いの花壇整備（計5回）

(2)冬はワックスキャンドルを作り、「シーニックdeナイト」を開催

成果と課題

◎学校全体で取り組む新しい取り組み

残念ながら函館マラソンが2年連続中止になり、計画していた地域と協働する活動については足りない部分があった。この活動を始めることで本校が地域との関わりを深め、生徒が卒業後の社会貢献活動を知り、考えていくきっかけとなる。

◎次年度以降にむけて

今年度は参加できる部分から実施したので、活動全体の内容や意義が生徒に充分伝わっていない面があった。次年度は年度初めから『花いっぱい道づくりの会』と連携し、計画的に活動を進めていく。1年を通して活動し、地域の方との交流を深めながら生徒会主体の働きかけやPTA活動との協働を増やしていきたいと考えている。

学校の概要など

平成31年度（令和元年度）に開校し、知的障がいのある生徒が対象。学校教育目標は『共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成』とし、普通科、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の4学科から編成されている。

<http://www.hakodatekoushi.hokkaido-c.ed.jp/>



除草などの花壇整備

初めてのワックスキャンドル製作

文部科学省委託事業 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築
令和3年度全道図書館専門研修〈経営(関係法規)〉開催要項

1 趣 旨

2019年6月に読書バリアフリー法（視聴覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が成立しました。障害の有無にかかわらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律です。この法律を出発点に、どんな人も利用しやすい図書館づくりのために役立つことを学びます。

2 テーマ

「誰もが読書できる図書館を目指して」

3 主 催

北海道図書館振興協議会、北海道立図書館

4 共 催

北海道教育委員会

5 日 時

令和4年（2022年）1月14日（金） 10時30分から15時50分まで

6 会 場

北海道立図書館 1階研修室（江別市文京台東町41番地 TEL：011-386-8521）
※JR大麻駅南口から徒歩約8分

7 対象者

道内公立図書館（公民館図書室）職員、市町村教育委員会職員、学校図書館の運営等に携わる方

8 定 員

25名（定員を超えた場合は、調整することがあります。）

9 内 容

「日程」のとおり

<日 程>

時 間	内 容
10:00～10:30	受 付
10:30～10:40	開 会
10:40～12:00	<p>講 義</p> <p>①「第6期 北海道障がい福祉計画について」 講師：北海道保健福祉部 障がい者保健福祉課社会参加係 係長 長多 将嗣 氏</p> <p>②「障がいのある方への生涯学習支援」 講師：留萌教育局 教育支援課 社会教育指導班主査 高橋 枝里子 氏</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読書バリアフリーの推進を含めた「第6期 北海道障がい福祉計画」の全体像を知り、これらの施策によって北海道が目指す社会のかたちを共有します。また、障がい者の生涯学習支援について広く学びます。</p> </div>
12:00～13:00	昼休み
13:00～14:00	<p>事例紹介 「点字図書館の仕事について」 講師：札幌市視聴覚障がい者情報センター 遠藤 宏明 氏 (札幌市保健福祉局障がい保健福祉部)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ボランティアグループとの連携により点字資料、録音資料などの多様な資料を必要な方に届ける、視聴覚障がい者情報センター点字図書館の仕事を通して図書館に出来ることを学びます。</p> </div>
14:00～14:10	休 憩
14:10～15:10	<p>事例紹介 「図書館利用に障害のある人々へのサービス」 講師：日本図書館協会 障害者サービス委員会委員 椎原 綾子 氏 目黒区立八雲中央図書館主任</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>図書館と図書館資料を利用するとき存在するさまざまな障壁を認識し、障がい者サービスへの理解を深め、地域のすべての人にサービスを届ける図書館の役割について改めて考えます。</p> </div>
15:10～15:40	館内設備見学ツアー
15:40～15:50	閉 会

令和3年度全道図書館専門研修〈経営（関係法規）〉報告

1 日 時 令和4年1月14日（金）10:30～15:50

2 会 場 道立図書館 1階研修室

3 参加者 20名

※当初の参加予定人数31名中、コロナウィルス感染症対策および悪天候によるキャンセル 11名

4 日 程 別添開催要項のとおり

5 概 要

講義①「第6期 北海道障がい福祉計画について」

保健福祉部障がい者保健福祉課社会参加係 係長 長多 将嗣 様

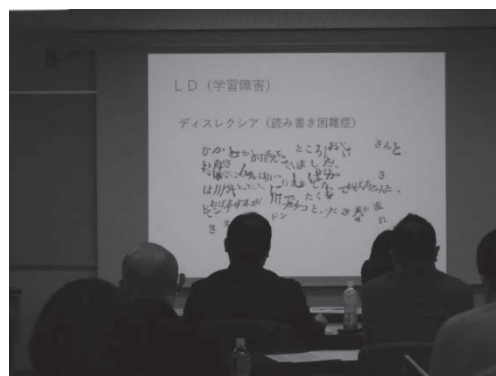
第6期北海道障がい福祉計画についての概要、現状など特に読書バリアフリーに関係ある部分を重点的にご説明いただいた。今回の研修の目的を明確にし、参加者と共有することが出来、研修の導入として参考になる講義であった。

講義②「障がいのある方への生涯学習支援」

留萌教育局教育支援課社会教育指導班 主査 高橋 枝里子 様

障がい者の生涯学習支援について、関係法令が整備されてきた過程や北海道の現在の状況などの基本的な情報の提供、実践事例の紹介などに始まり、さらには具体的に障がい者の生涯学習を支援するにあたって、どのような障がいを持っているとどんなことが苦手な場合があるのかについても解説があった。

講師ご自身の経験を交えたエピソードも多数紹介され、図書館利用をするにあたって何が問題になり、職員の対応ではどのようなことが求められるのか、参加者にも実際に図書館（室）での対応が必要な場面がイメージがしやすい講義となった。



事例紹介「点字図書館の仕事について」

札幌市視聴覚障がい者情報センター 遠藤 宏明 様

点字図書館について、設立の経緯や点字図書館がどのような施設であるのかといった基本的なところから、さらに実際の業務内容、読書バリアフリー法対応への課題まで広くご紹介いただいた。

多数のボランティアに多くの協力を得ている状況であるが、ボランティアの高齢化による担い手の確保に関する課題や、コロナ禍でなかなかボランティアの活動や新規ボランティアへの研修ができずにいる現状についても言及があった。

事例紹介のあと参加者から点字図書館の業務や資料について具体的な質問が多くあがり、関心の高さがうかがえた。

事例紹介「図書館利用に障害のある人々へのサービス」

日本図書館協会障がい者サービス委員会委員（目黒区立八雲中央図書館主任） 椎原 綾子 様

障がい者サービスとは何であるのか、何のために行うのかという定義と目的を明確にすることをスタートに、障がい者サービスの対象や制度・法律について説明いただいたのち、DAISY 資料や LL ブック等の個別の資料がどのようなもので、どのような使い方があるのかについても現物や関連 Web サイトを紹介しながら解説いただいた。

資料の提供方法、また図書館がどのように資料を使いたいけど使えないでいる人のニーズを掘り起こし、リーチするのかといった PR 方法に対するアドバイスなど、実際の図書館業務における障がい者サービスのあり方について具体的な方法が提案され、それぞれの図書館・図書室における業務の参考になる事例紹介となった。



ブックトラック上段：椎原さんの事例紹介の中で言及された資料（当館所蔵）
中・下段：当館「バリアフリー資料セット」の一部

館内設備見学ツアー

道立図書館総務企画部企画支援課 主任 木村 啓

20 分程度で館内のスロープ、車いす昇降機等の設備、またカウンターに用意しているコミュニケーションボードや拡大読書機などのハンディキャップ対応ツールを利用者の動線に沿って見ていくツアーを行った。

自館の設備の参考にするため、写真撮影を行う参加者もいた。

※交通機関のため不参加：1 名

6 アンケート結果

- ・別添のとおり回答を得、内容については概ね好評であった。〔回収率 100%〕
- ・研修当日がたいへんな悪天候であったことから、冬季の研修は避ける、もしくはオンライン開催を希望する声が多かった。

7 その他

- ・研修当日までにコロナウイルス感染症対策、悪天候によるキャンセルで 11 名のキャンセルが出たため、当日配布資料を個別に送付することとした。

障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業
地域連携コンソーシアム会議 構成員名簿

氏名	所属・職名
土島 智幸	医療法人稲生会 理事長
宮崎 隆志	北海道大学 教授
志水 幸	北海道医療大学 教授
今野 邦彦	藤女子大学 准教授
安井 友康	北海道教育大学札幌校 教授
杉澤 洋輝	いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局長
大原 裕介	社会福祉法人 ゆうゆう 理事長
野村 宏之	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 副局長
紺野 順子	D P I 北海道ブロック会議 理事
吉田 智樹	北広島市教育委員会 社会教育課長
山田 努	岩見沢市健康福祉部 主幹
近藤 正臣	北海道真駒内養護学校 副校長
松岡 志穂	北海道札幌あいの里高等支援学校 教頭
仙北谷 逸生	北海道教育庁学校教育局特別教育支援課 課長補佐
相馬 知人	北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課 主幹
山田 智章	北海道立生涯学習推進センター 主幹
太田越 雄三	(株) ディスティネーション十勝

事務局：北海道教育庁社会教育課